



Vol 173 「円高が怖いんですが...」 為替ヘッジあり・なしを選ぶポイント

2年程前までは、1米ドル110円前後で推移していた米ドル/円。それが今では、140円前後まで円安が進みました。海外資産への投資を行っていた方の中には、この間に円安の恩恵を受けた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

これまでの円安の大きな要因の一つには、諸外国の利上げによる内外金利差の拡大があるとされています。より高い金利を求めて海外に資金が向かった結果、円を売る動きが強まったわけです。ただ、足元では、米国の利上げ打ち止め時期を巡るさまざまな憶測が飛び交うなど、先行きを見通しづらい状況にあります。



米ドル/円と日米2年国債利回りの推移

期間: 1993年6月末～2023年5月末



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成



急速な為替の動きや金融政策に変化の兆しが見え始めた際などにお問い合わせいただくことが多いのが、「為替ヘッジありとなし、どちらを選ぶべきか」というものです。今回は、このテーマについて改めて考えてみたいと思います。

為替変動の影響を抑える「為替ヘッジ」

そもそも為替の動きは、海外資産への投資でどのように関わってくるのでしょうか。

仮に米国株に投資する場合を考えてみると、①日本円を米ドルに交換、②米国株を売買、③米ドルを日本円に交換、という流れになります。そして、この①と③の間で起こる為替の動きを避ける(ヘッジする)ための仕組みが為替ヘッジなのです。

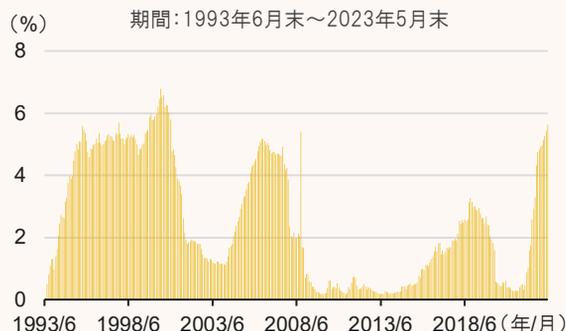
米国株に投資する場合の流れのイメージ



為替ヘッジにはコストがかかる？

為替ヘッジには、将来交換する為替レートを現時点で決めてしまう取引(為替予約取引)が活用されます。この取引により、将来の為替レートはあらかじめ決まるので、円高・円安のいずれに動こうが、その影響は受けないこととなります。ただし、為替ヘッジを行なう場合には、取引通貨の金利差相当分が「為替ヘッジコスト」として実質的にかかる点には注意が必要です。

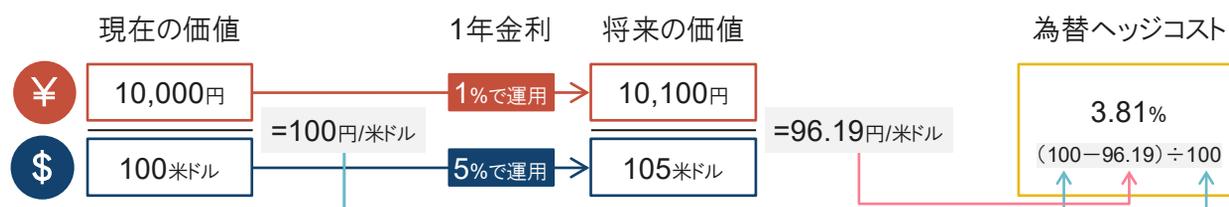
米ドル/円の為替ヘッジコストの推移



※米ドル/円3ヵ月為替ヘッジコストを使用。※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

為替ヘッジコストの計算方法(イメージ)

実際には、通貨の需給なども影響しますが、為替ヘッジコストは以下のように、対象通貨の金利をもとにした計算で決まってきます。



知っておきたい為替ヘッジのメリット・デメリット

投信の中には、同じ資産に投資するものであっても、為替ヘッジを活用する「為替ヘッジあり」のものもあれば、「為替ヘッジなし」のものもあります。どちらを選べばよいのか悩んだ経験のある方も多いと思いますが、選ぶ際には為替ヘッジを活用することのメリットとデメリットは押さえておくことが大切になります。



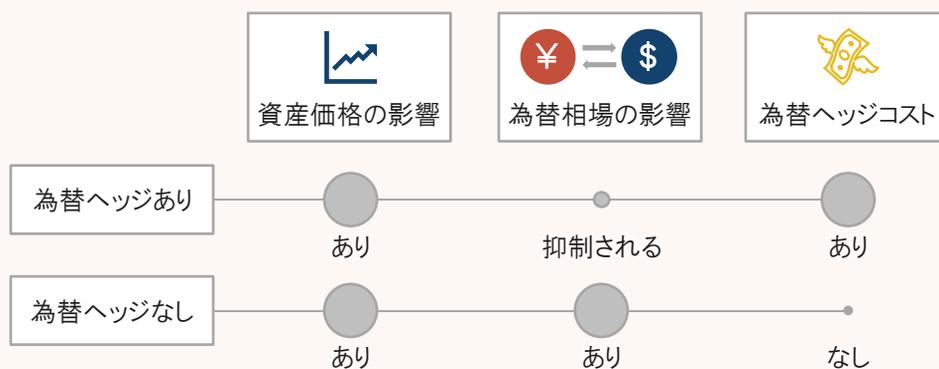
■ 為替ヘッジのメリット

一番に思い浮かぶのは、円高を懸念している場合には、円高時の基準価額へのマイナスの影響を抑えることもできるという点です。時に大きく動くことのある為替変動リスクを嫌う方にとって、為替ヘッジは一つの選択肢になると言えるでしょう。また、為替変動の影響を抑えることによって、純粋に海外資産の動きを捉えることを可能にするという点も魅力だと思います。

■ 為替ヘッジのデメリット(注意点)

一つ目は、為替変動によるプラス面(円安による基準価額の上昇)をあきらめなければならぬということ。二つ目は、為替ヘッジコストを負担しなければいけない場合があること。これらは、為替変動リスクを抑えることと引き換えに起こることとも言えるかもしれません。そして、三つ目は、為替ヘッジをしていたとしても、為替変動リスクを100%避けることはできないということです。

「為替ヘッジなし」と「為替ヘッジあり」のイメージ



※上記はイメージです。上記以外にも投信毎に異なる要素が基準価額に影響を与える場合があります。

どちらを選ぶかは、投資スタンス次第

メリットとデメリットをお伝えさせていただいたうえで、「結局どちらを選べばよいのか？」というご質問をいただくことがあります。このご質問に対して日興アセットでは、「お客さまの投資スタンス次第」という主旨のご回答をさせていただいています。

これは、メリットとデメリットのどちらの方がより重要だと考えるかが、お客さまによって異なってくるためです。「為替の変動を許容できない」や「これから円高になると予想する」という方にとっては、「為替ヘッジあり」が一つの選択肢になると思います。その一方で、「通貨分散を図りたい」「為替変動リスクを許容できる」「これから円安を予想する」という方にとっては、「為替ヘッジなし」が選択肢になってくると考えられます。

最後に

確かに、「為替ヘッジなし」か「為替ヘッジあり」かというのは、非常に悩ましい問題です。しかし、海外資産に投資する投信の場合は、中長期的には、為替以上に、株式や債券などの投資対象資産の動向の影響を強く受けることが多くあります。

そのため、中長期的な投資をご検討されている場合には、まずは投資対象資産の選定に注力していただき、そのうえで、「為替ヘッジあり」「為替ヘッジなし」を選べる場合には、ご自身が納得できる選択をしていただきたいと思います。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント